

# RETAILER ACADEMY NEWS

Mar 2022 | Bentley Motors Japan



## 英国のリテラーがカーボンニュートラルを達成 日本の販売店でも本格始動

ベントレー モーターズはこのほど、英国のリテラーネットワークの全24拠点で、カーボンニュートラルを達成したと発表しました。英国のリテラー網のカーボンニュートラル達成は、2019年にカーボンニュートラル認証を取得しているクルー本社が目指すサステナビリティへのプログラムを補完するものです。

クルーのビムズレーンにある工場は、2019年にカーボントラストによって最も厳しいとされるPAS 2060 認証を取得。これはベントレーが2020年に発表したBeyond 100 戦略の中核的な位置づけとなっています。そしてベントレーのサステナビリティへの取り組みは、Beyond 100 戦略を実行するうえでの原動力ともなっています。

英国のリテラー 24 拠点は、それぞれカーボントラストと密接に連携し、2021年中にカーボンニュートラルについてPAS 2060 認証を取得しました。当初は植樹を行ったリカーボンオフセットを活用したりして認証を取得しましたが、現在では従業員の車両のBEVおよびPHEVへの切り替え、グリーンエネルギーへの変更、使い捨てプラス

チックの不使用など、さまざまなアクションを含むCO2削減計画の最初のステップを実行しています。ベントレー モーターズは、遅くとも2025年までに全世界の全リテラーにカーボンニュートラルの達成を要請しており、241 拠点到英国で展開したのと同様のスキームを展開する予定です。

### 日本でも販売店のカーボンニュートラルを本格始動

こうした背景を受け、日本のリテラーの皆様にもカーボンニュートラルの達成に向け、各販売店でのCO2削減計画の策定をお願いしたところです。全拠点の従業員全員が完璧に実行することは難しいかもしれませんが、ほんのちょっとしたことから始めることは可能です。地域的な特性なども踏まえつつ、ベントレー モーターズ ジャパンとしては、1人ひとりができることをあらためて考える場を作っていただければ、と考えています。

右記は、手始めに着手できる（経済的な負担が比較的小さい）アクションの例です。CO2削減計画の策定に役立ててください。



### CO2削減の直接的な行動の一例

- ペットボトルの不使用（従業員はマイボトル持参、お客様提供用はリターナブルボトルへの変更）
- ショールームの照明をスマートタイマー付LEDに変更
- エアコンの設定温度の見直しと管理
- 終業時のPC等の電源オフの徹底 など

### サステナブルなPOSの行動の一例

- 事業所（および周辺）の緑化
- プリンターの不使用・撤去
- ケータリング業者を国内産商品中心の業者へ変更
- サステナビリティをテーマとしたイベントの開催 など





## COMPETITOR INFORMATION



# 最もパワフルなラグジュアリー SUV アストンマーティン DBX707

アストンマーティンは、2022年2月1日にアストンマーティン DBX707を発表しました。

世界でもっともパワフルなラグジュアリー SUVとして、ベントレーのベンティガ Speedと直接競合するモデルになります。

### SUMMARY

- ・アストンマーティンのSUVモデル、DBXに追加されたハイパフォーマンスモデル
- ・最高出力707PS、最大トルク900Nmを発揮する4.0L V8エンジンを搭載
- ・動力性能は0-100km/h加速3.3秒、最高速度310km/h
- ・エクステリアではフロントグリルを大型化。インテリアではスポーツシートを標準装備
- ・製造開始は2022年第1四半期。納車は2022年第2四半期を予定



### EXTERIOR

- ・フロントグリルは冷却性能を高めるために大型化。サテクローム仕上げの6本のバーと併せてトップモデルの存在感を主張
- ・デイトタイムランニングライト、エアインテーク、ブレーキ冷却ダクト、フロントスプリッターのデザインを変更
- ・ダークサテクローム仕上げのウィンドウフレームを採用。サイドシルはグロスブラック仕上げの専用デザインに
- ・22インチホイールを標準装備。オプションで23インチホイールを設定
- ・リアは、専用デザインのカーボンファイバー製リアスポイラー、リアディフューザー、4本出しエグゾーストエンドを採用



### TECHNOLOGY

- ・4.0L V8 ツインターボエンジンにボールベアリングターボチャージャーを新たに採用し、専用チューニングを実施
- ・DBX707の最高出力707PS、最大トルク900Nmは、DBXに比べて最高出力は157ps、最大トルクでは200Nmアップ
- ・トランスミッションは、DBXのトルコン式9速ATに代え、変速速度の速い湿式9速デュアルクラッチ式ATを新たに搭載
- ・e-diff (電子制御式リアデファレンシャル) は、高性能化に伴い強化および最終減速比をローギアード化
- ・フロント420mm径、リア390mm径のカーボンブレーキを標準装備。バネ下重量を40.5kg削減



### INTERIOR

- ・ドライブモードなどの走行系スイッチをセンターコンソールに配置。インフォテインメントシステムを介することなく瞬時に設定変更が可能
- ・インテリアテーマは、標準仕様の「Accelerate Sport」とオプションの「Comfort」「Inspire Sport」の3種類を設定
- ・「Accelerate Sport」はレザー/アルカンターラ®素材、「Comfort」「Inspire Sport」ではフルセミアニリンレザーを採用
- ・ダーククローム仕上げのスイッチギアを採用。トリムはピアノブラックウッドを標準装備
- ・独自のカラーや素材を求める顧客のために「Q by Aston Martin」による内外装のビスポークも用意





## BRAND STORY

ASTON MARTIN  
DB SERIES

映画「007」シリーズのボンドカーとしても有名なアストンマーティン DB5

## オーナー名のイニシャルを記したDB シリーズ

アストンマーティンの創業は1913年。当初からレースで活躍する存在でしたが、経営は安定しない状況が続いていました。

1947年にイギリスの実業家であるデイビッド・ブラウンが新たなオーナーとなったことで経営が安定。このとき、高級車メーカーのラゴндаも買収し、スポーツカーと高級車の2つのブランドが共存することになります。この関係は、現在のメルセデスで例えれば、AMGとマイバハのようなものといえます。

1948年に登場した「2リッタースポーツ」は、その名の通り、2.0L 直列4気筒OHVエンジンを搭載するスポーツカー。このモデルは戦後初の市販モデルでしたが、デイビッド・ブラウンは本命となるモデルを1950年に発表します。それが初代DB シリーズとなる「DB2」です。車名の「DB2」とは、デイビッド・ブラウンの頭文字である「DB」を記

したもので、新経営下で生まれた2作目という意味。1作目の「2リッタースポーツ シリーズ」も後に「DB1」とされました。



W.O. ペントレー設計のエンジンを搭載してレースでも活躍したアストンマーティン DB2

## W.O. ペントレー設計のエンジンを搭載

「DB2」の最大の特徴は、W.O. ペントレーが設計した直列6気筒DOHCエンジンを搭載したこと。W.O. ペントレーは、ペントレーがロールス ロイスと合併した後に同社を離れ、ラゴндаに移籍。そのラゴндаがデイビッド・ブラウンにより買収されたことで、結果的にアストンマーティンにW.O. ペントレー設計のエンジンが搭載されることになりました。

## DB シリーズの発展

「DB2」は、強力なエンジンによりレースでも活躍。1951年には新開発のレーシングモデル「DB3」が登場します。1958年には車体とエンジンを一新した新世代の「DB4」が登場。1963年には「DB5」に発展します。このモデルは映画「007」シリーズのボンドカーとして使われたことで一躍有名になりました。さらに「DB6」「DBS」へと発展しますが、1972年にデイビッド・ブラウンが経営から手を引いたことで「DB」の名は姿を消しました。

## 新世代のDB シリーズ

新たにフォード傘下となったアストンマーティンは1997年に「DB7」を発表し、「DB」の名が復活。「DB7」は現行モデルの「DB11」につながるアストンマーティンの主力モデルの系譜になります。そして2019年に発表された同社初のSUVにも、伝統の「DB」を継承する「DBX」の車名が使われています。



1970年代にいったん途切れた「DB」の名は1990年代に復活。現行モデルでは「DB11」を名乗る

## BEYOND 100

ベントレー モーターズはこのほど、次世代の女性の人材育成を支援すべく、テクノロジーやエンジニアリング、デザイン、ビジネスの分野で、女子学生向けに専用開発したメンタリングプログラムを開始しました。このプログラムは昨年 UAE で開始されて成功を収めた後、自動車業界でのキャリアを検討する女性を増やすためのベントレーの戦略の一環として、英国でも展開されています。

3月8日の国際女性デーに合わせて開催された「ExtraordinaryWomen」と銘打ったローンチイベントには、クルーUTCをはじめビジネスを学ぶ英国の4つの大学に通う学生が集結。パネルトークセッションでは、ベテラン自動車ジャーナリストのエリン・ペイカー氏が進行役を務め、ベントレー モーターズのカレン・ランゲ取締役（人材育成担当）、アーデン大学のジョージナ・ハリス教授らが、自動車業界のリアルを語りました。その後、学生からのさまざまな質問を受け付ける質疑応答の時間が設けられ、自動車業界でのキャリアやチャンス、より多くの女性を業界に呼び込む方法など、多岐にわたる内容の質問が寄せられました。

イベントに参加したランゲ取締役は、「自動車業界は、史上最も急速に変化しており、あらゆる意味で多様性を確保することは、Beyond

ベントレーが女子学生向けの  
メンタリングプログラムを開始

100 戦略と将来の成功にとって重要です。自動車業界では、重要な分野で女性が過小評価されているケースもあり、国際女性デーを機により多くの女性がキャリアの扉を開けるため、彼女らの背中を後押しするサポートをしていくことをあらためて考えました」などとコメントしています。

ベントレーは現在、パートナーとして提携している大学と協力し、このプログラムに参加する学生を募っています。UAE では2021年12月に一足早くこのプログラムが開始され、プログラムに参加する4人の学生が決定しました。6月にはベントレー モーターズのクルー本社でメンターからの指導を受けることになっています。





# エポックメイキングなモデルで振り返る ベントレー モーターズの歴史



今年で創業103年目となるベントレー モーターズ。長い歴史の中において、その時代における革命的なモデルや、後のベントレーに大きな影響を与えたモデルなどが存在します。今回は、ベントレーの歴史をそんなエポックメイキングなモデルで振り返ってみます。

1921

すべてはここから始まった

3リッター

現在までベントレーが守り続けているのが、創業者W.O.ベントレーの「速い車、良い車、クラスで最高の車を作る」という哲学です。W.O.がこの哲学を最初に体現したのが3リッターで、1921年から1929年まで生産されました。現在ベントレー本社で保管されているEXP2は、2番目に製造された試作車で、現存する最古のベントレーでもあります。



1929

数々の伝説を残した名車

4 1/2リッター「ブローワー」

「ブローワー」の名で知られる4 1/2リッターは、戦前のベントレーを代表するレースカーであり、多くの愛好家の間ではこのマシンを愛したドライバーのティム・バーキンとのイメージと結びつき、数々の伝説となって今に伝えられています。サーキットでロケットのように疾走する姿は、多くのファンを魅了しました。2020年に始まったコンティニュエーション シリーズ プロジェクトにより、「新車」の4 1/2リッターが12台限定で誕生しました。



1930

W.O.自身が手掛けた最後のモデル

8リッター

当時最大かつ最もラグジュアリーなベントレーとして、1930年に発売されたのが8リッターです。W.O.が自ら設計した最後の車でもありました。発売直後に始まった世界大恐慌の影響を受け、8リッターは1930年から1932年の2年間にわずか100台が製造されただけで、表舞台から姿を消すことになりました。現在ベントレー モーターズが所有する8リッターは、2006年からベントレー モーターズのCEOを象徴する「社用車」と位置づけられています。



1946

戦後初めてクルー工場で製造されたモデル

Mark VI

ロールス・ロイス傘下時代に開発されたMark Vの正統後継モデルとして誕生したのがMark VIです。クルー工場では戦時中に航空機エンジンを製造していましたが、終戦後には車両の製造を開始。Mark VIがクルー製造の第一号となったのです。なお、昨年はクルー工場での製造開始から75周年という節目の年でした。



1952

現代のデザインDNAの起源

R-Type コンチネンタル

ベントレーは1952年、4人乗車で時速100マイル（約184km/h）で巡航できる前代未聞の車を世に送り出しました。それがR-Type コンチネンタルです。パワーライン、ハウンチ、リアエンドへとなだらかに傾斜していくルーフラインという、現代のベントレーのデザインにおける原型となりました。製造された208台のうち193台のボディを製造したのが、現在ベントレーのビスポーク部門となっているH.J.マリナーでした。



1959

伝統のV8エンジンの起源

S2 コンチネンタル フライングスパー

1959年の発売時に世界で最もラグジュアリーで革新的なサルーンの1つとして高く評価されたモデルであり、S1の直列6気筒エンジンに代わり、6.2リッター V8エンジンを搭載した初めてのモデルでもありました。このエンジンは1971年に排気量が6 3/4リッターに拡大され、Tシリーズに搭載されました。その後は基本設計などを変更することなく、2020年にミュールザンヌが生産終了となるまで、60年の長きにわたりベントレーの中核モデルを支えました。



2003

ラグジュアリーグランドツアラーの定義

コンチネンタル GT

ベントレー モーターズがフォルクスワーゲン グループ傘下となってから初めて設計・製造されたのがコンチネンタル GTで、2003年に発売されました。発売当時、ベントレーはラグジュアリーグランドツアラーのデザイン言語を洗練させ、再定義したと高く評価されました。GTCやSpeed、スーパースポーツなどの派生モデルも登場しました。2011年に2代目が、2017年には3代目の現行モデルが発売され、世界中で愛されるラグジュアリー グランドツアラーであり続けています。



2009

創業90周年で発表されたフラッグシップ

ミュールザンヌ

ベントレーの創業90周年にあたる2009年、ペブルビーチで発表されたのが、フラッグシップモデルのミュールザンヌです。伝統の6 3/4リッターエンジンを搭載し、専用の生産ラインで熟練工が手作業で製造する、ラグジュアリーとパフォーマンスの究極の組み合わせを表現したモデルでした。2020年に生産が終了するまでの10年間に、SpeedやEWB（日本未導入）なども登場。ちなみに「ミュールザンヌ」という車名は、ル・マンで使用されるサルトサーキットの「ミュールザンヌコーナー」に由来しています。







## ベントレー札幌がリニューアルオープン

ベントレー札幌がこのほど、オートモールサッポロ内にリニューアルオープンしました。これまでも同じオートモールサッポロにある仮店舗で営業を続けてきましたが、東京以北で唯一のベントレーの最新CIに準拠したリテラーへと生まれ変わりました。ショールームでは、新車および認定中古車を常時2台展示することができます。

ベントレー アジアパシフィックのベントレー札幌のリニューアルオープンへの期待は高く、リージョナルディレクターのニコ・クールマン（写真右）は「ベントレー札幌は2005年以降、北海道のお客様にベントレーの最高レベルのラグジュアリー体験を提供し続けてきました。このリニューアルオープンした最新のベントレー札幌の施設においても、素晴らしいラグジュアリー商品とサービスを通じ、最もパーソナルなオーナーシップ体験をお届けするよう努めています」とのコメントを寄せています。

ベントレー モーターズ ジャパンのブランドディレクターの牛尾裕幸は、「ベントレーは現在、クーペ、コンバーチブル、サルーン、SUVに加え、ハイブリッドモデルなど、かつてないほど充実したモデルラインナップを取

り揃えております。これらの魅力的なモデルとベントレーの世界観を、この新ショールームで多くの皆様にご体験いただきたいと思います」などと語っています。

ベントレー札幌は、札幌新道沿いの道内各地に通じる高速道路の雁来ICから近い場所に位置し、札幌市内から車でもアクセスしやすいロケーションにあります。リニューアルオープンを記念し、3月12日・13日にはお客様向けのグランドオープニングイベントも実施しました。

### ベントレー札幌

所在地： 〒541-0054 札幌市東区東苗穂5条2丁目6番10号  
営業時間： 10:00～18:00（ショールーム・サービス）  
定休日： 毎週火・水曜日、年末年始（ショールーム）  
毎週火曜日、年末年始（サービス）  
TEL： 011-781-3399



## AFTER SALES

## “正規販売店に入庫すべき理由”にご協力いただきありがとうございました

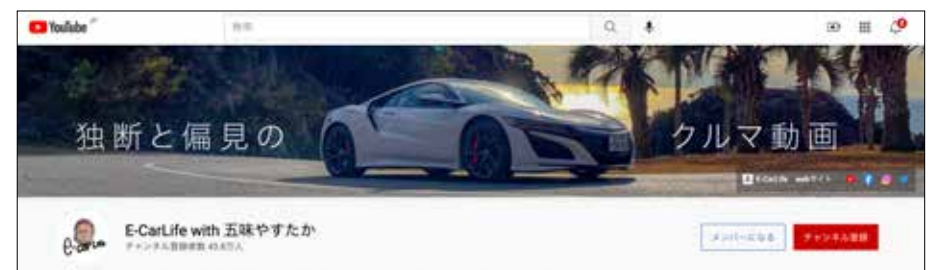


ベントレー モーターズ アジアパシフィック（ベントレー AP）が実施するプロジェクト「アフターセールス マーケティング リーク」において、「ベントレー正規販売店にお客様がサービス入庫すべき5個の理由」を挙げていただくようお願いしたところ、販売店の皆様からさまざまなご意見を頂戴いたしました。年度末の繁忙期にもかかわらずご協力いただいたことに対し、あらためて感謝いたします。

ご案内時にも明記しておりましたが、販売店の皆様からいただいた「理由」をベントレー モーターズ ジャパンにてベントレー APから出されている要件の「10個の理由」に再編集いたします。それらを元にBMJにて制作物のストーリーボードを作成し、ストーリーボードに沿って短尺動画やSNS素材を作成してまいります。既納顧客向けのDM発送などはBMJが行いますが、その後のSNSでの広告展開につきましては、BMJのみならず販売店の皆様にもご協力いただくことになります。広告展開を実施するタイミングになりましたら、あらためてBMJからご案内いたします。

## MEDIA

## 人気モータージャーナリストらがベンティガハイブリッドの動画を続々と公開



昨年11月に日本導入を発表したベンティガ ハイブリッドですが、人気モータージャーナリストらが同モデルのレビュー動画や試乗動画を続々と公開しています。お客様の中にはこういった動画をご覧になったうえで来店される方も少なくないと推測されますので、お時間のあるときに視聴しておくことをおすすめします。

国産車・輸入車を問わず、さまざまな車種のレビューや試乗の動画を公開しているモータージャーナリストの五味やすたかさんは、自身のYouTubeチャンネル『E-CarLife with 五味やすたか』で、ベントレー神戸とのコラボ動画を公開。レビュー編と試乗編の2本の動画で、内外装からオプション、静粛性、操作性、トルクの感触、他ブランドとの乗り味の違いなどまで、五味さんが感じたことを生の声で聞くことができます。

また、車好きとして知られるモデル&タレントのマギーさんも、自動車をテーマとした自身のYouTubeチャンネル『MAGGY's Beauty and the Speed』で、1月にベンティガ ハイブリッドについて、レビュー編とインプレッション編の2本の動画を公開しています。モータージャーナリストが語るのとは少し異なる、若い女性の感性も交えたインプレッションとなっています。

**E-CarLife with 五味やすたか**

レビュー編

試乗編

**MAGGY's Beauty and the Speed**

レビュー編

試乗編



# 後編 自動車工場で装着されるタイヤと市販されているタイヤは、どう違う？

先月に続き、今月もクルマの生産工場で装着されるタイヤ（いわゆる工場装着タイヤや標準タイヤと呼ばれます）と、タイヤショップなどで販売されている汎用タイヤ（補修用タイヤや一般タイヤと呼ばれます）の違いを説明します。今月もピレリジャパンから提供いただいた情報を元にページ構成しています。



## ベントレーとピレリの歴史

ベントレーとピレリの関わりは長い歴史があります。遡れば、1980年代から「ミュルザンヌ ターボR」などにピレリのタイヤが装着されていたのです。1990年代には、「コンチネンタル」にピレリの「アシンメトリックピレリP ZERO」が採用され、同タイヤは「アルナージ」にも使用されています。2000年代になると「コンチネンタルGT」に冬用タイヤとして初となる時速270kmを認められた「ピレリWinter Sottozero II」が採用されています。また、「ベントレイガ」にもベントレーとピレリが共同開発した「P ZERO」と「Scorpion Verde オールシーズンタイヤ」が装着されています。さらに、近年の「コンチネンタルGT」や「フライングスパー」にもピレリのタイヤが採用されています。



1990年代の「コンチネンタル」にもピレリのタイヤが採用されていました。

## 自動車メーカーがタイヤに与える「お墨付き」

クルマの生産工場で装着される標準タイヤは、長い時間をかけて自動車メーカーとタイヤメーカーが開発しており、そのクルマにぴったりの性能が与えられています。いわば、オーダーメイドのスーツのような存在です。では、そうしたタイヤを手に入れたいというときに、知ってほしいのが、自動車メーカーがタイヤに与える技術認証の証があること。言ってみればベントレーによる「お墨付き」が存在しているのです。ベントレーの技術認証を得たタイヤには、サイドウォールに「B」「B1」「BC」「BL」といったマークが刻印されています。これが、ベントレーのために専用設計されたタイヤの証となります。タイヤ交換を行うときは、そうした承認マークのついた製品を選ぶことで、クルマ本来の性能が期待できるのです。



ベントレーが技術認証を与えたタイヤには「B」「B1」「BC」「BL」といったマークがサイドウォールに刻印されています。

## 標準装着タイヤに採用される最先端技術

クルマの生産工場で装着される標準タイヤは、その車種にぴったりの特性が与えられていますが、それだけでなくタイヤメーカーの持つ最先端の技術も積極的に採用されています。そのひとつがタイヤの静粛性を高める「ピレリ・ノイズキャンセリングタイヤ（P・N・C・S）」技術です。通常、タイヤの静粛性を高めたいとき、設計時にタイヤの剛性を下げることがあります。しかし、その場合、ハンドリング性能は悪化します。それに対して、ベントレーでは、優れたハンドリング性能と高い静粛性の両立を求めました。その相反する性能をかなえる要望に対して、ピレリが生み出したのが「ピレリ・ノイズキャンセリングタイヤ（P・N・C・S）」技術でした。これはタイヤ内部にスポンジを張り付けることで、タイヤ内部の空洞共鳴音をスポンジによって吸収してしまいます。この技術の優れているのはタイヤの剛性を下げることなく、静粛性を飛躍的に向上させることができる点にあります。



タイヤ内部の空洞部分の空気信号で発生する空洞共鳴音をスポンジによって吸収させる「ピレリ・ノイズキャンセリングタイヤ（P・N・C・S）」技術。



「ピレリ・ノイズキャンセリングタイヤ（P・N・C・S）」技術を採用するタイヤには、サイドウォールに「PNC S」の刻印があります。